

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



大同の緑の地球環境センター。乾燥地には珍しく霧氷がきれいでした（2015年12月）

Contents

- 25周年の年頭にあって 前中久行 P 2
- 風雪と奇跡の道 25年 武春珍 P 3
- 運営懇談会を開催（大阪・東京）..... P 5
- 菌根菌を用いた海岸クロマツ林再生試験 P 6

2016. 1
167

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

参加者募集 GEN 自然と親しむ会

淀川でバードウォッチング

木の葉の少ない冬は鳥の観察に適した季節です。またこの季節にしかみられない種類もあります。今回、見られる(かもしれない)鳥はおよそ50種、そのうち20種近くが冬鳥です。

●日時：2月6日(土)10時～15時ごろ

●場所：樟葉から枚方市までの淀川沿い(京阪電車枚方市駅で解散。7kmほど歩きます)

●集合：京阪電車「樟葉」駅改札出口付近に10時(緑の旗が目印です)

●案内：高田直俊さん(元大阪自然環境保全協会会長)

参加者募集 GEN 自然と親しむ会

植物観察と樹木地図づくり

大泉緑地は、約40年前に、元は田んぼのところに木を植えた公園です。午前中は植物観察、午後は簡単な地図測量と樹木の幹の太さを測定します。なお、午後の活動は大泉公園管理事務所と共同で行います。午前・午後いずれ

かだけでも参加可能です。

●日時：2月27日(土)10時～15時ごろ(雨天中止)

●集合：大泉緑地金岡口管理事務所前(地下鉄御堂筋線新金岡駅 東へ徒歩10分)

無煙炭化器で炭焼き体験

筈井 駿也(学生)

2015年11月15日(日)JR武田尾駅付近の武庫川河川敷で炭焼きとバーベキュー、豚汁、釜炊きのご飯を楽しみました。参加者は11名。

武田尾駅に着くと、少し前まで街が広がっていたのが嘘のように、壮大な自然が広がっていた。この年になると自然と触れ合う事もそうそうないので久しぶりの感覚であった。ちょうど紅葉も見ることができて寒くも無い。雨を除いては最高のロケーションであっ

じめ、快晴とまではいかないがバーベキューを行うのに十分な天気となった。天気が晴れるとともに皆の心も晴れ良いムードとなった。

そこにはバーベキューセットや薪、鍋などがある中で、1つ奇妙な道具があった。何か車の部品のような、穴の空いた円盤のようなもので、見たことがない。尋ねてみると、それは無煙炭化器というもので、緑の地球ネットワークさんが強く推奨道具であった。無煙炭化器は、自然に優しく、できた炭も利用できるたいへん優れた物で、見たことない道具に強く興味を惹かれた。

時間が経ち、バーベキュー、豚汁、釜飯と豪

●参加費：700円(保険料をふくむ)
●持ちもの：暖かい服装、歩きやすい靴。弁当、飲み物、敷物。あれば双眼鏡、フィールドスコープ、野鳥図鑑。

●定員：20名

●申込締切：2月1日(先着順)

●問合せ・申込みは GEN 事務所まで ※雨天中止

●講師：前中久行(緑の地球ネットワーク代表)

●参加費：500円(保険料、豚汁材料)
●定員：20人程度

●昼食：簡単なお弁当と豚汁を用意します。飲みもの、お椀、敷物をお持ちください。

●申込み：2月23日までに GEN 事務所へご連絡ください。

華な料理を食べ、お腹がふくれたころ、参加者の方々と廃線ウォーキングへ向かった。緑の地球ネットワークさんや、参加者の方々に知識人が多く、私の知らない知識を多く持たれているので、自然についての知識を聞きながら、大変有意義な時間を過ごせた。

格安SIMでGENを支援

使用料の一部が寄付されます

いま話題のスマホ用格安SIM。それを使うことで、自然に無理なく社会貢献できる新しいプログラムがスタートし、私たち緑の地球ネットワーク(GEN)も支援対象団体として登録されました。

格安SIMだと、使用量が多くなれば、使用料を月2千円前後に抑えることができます。そのうえ月々の使用料の一定割合がNPO・社会貢献団体に寄付されることになり、自分の知らないうちに、私たちのような団体を助けることになります。

詳しくは以下のWEBページをごらんください。

<https://istrm.jp>



炭焼きのあと、各自が持ち寄った材料でバーベQを楽しんだ。



運営懇談会 2015 を開催 大阪と東京

これからの展望と方向性を議論

四半世紀を迎える大同での緑化協力。その間に現地でも、日中関係においても大きな変化があり、私たちの協力事業も質的变化を求められています。また国内活動の充実も大きな課題です。

実現した成果のアピールを！ 大阪会場には18人が参加



11月28日(土)、大阪府立環境情報プラザにて運営懇談会が開かれ、18名が参加しました。

大同の緑化をめぐる最近の状況を

再確認するとともに、これまでに達成した成果をアピールしないともったいないという意見がでました。今後の大同での協力活動については、その時点では現地の事情で具体的な話をするのが困難な状況にありましたが、そんななかでも2016年度の村でのプロジェクトを1か所確保できたという報告があり、また、ミニ南天門をつくりたいという話で盛り上がりしました。

東北の海岸林再生については、16年度のツアーは5月14日(土)、15日(日)

国内活動の充実ぶりを確認 他団体の代表なども参加



2015年12月19日(土)にGEN関東支部の月例会と運営懇談会が立教大学で開催されました。イオンリテールワーカーズユニオン、サントリー労働組合の代表など、25人が参加しました。午後1時30分からの月例会では高見邦雄副代表がまもなく25年を迎える

大同での緑化協力事業を振り返り、その成果を報告しました。初期に植えたマツは樹高10mにまで育ったところもあり、森林らしくなってきました。また小学校付属果樹園のアンズは、ときに凍害をうけて減収することがあるものの、アワ・キビなどの雑穀に比べ、5～10倍の収入をもたらす、農家の経済的自立と教育支援に役立っていることを、スライドを見てもらいながら報告しました。

3時過ぎからの運営懇談会では、活動開始当初とは中国の状況も、日中関係も大きく異なり、大きな転機を迎えるなかで、どのような活動を展開するか、

におこなうことで合意しました。5月14日に名取市で小川眞先生の講演が計画されているので、それに合わせたものです。ゆりりん愛護会や仙台在住のGEN会員の協力で成り立つプロジェクトなので、相談を密にしながらすすめていきます。

関東支部の宇久須プロジェクトについては、国際ボランティア学生協会(IVUSA)の活躍と、珪石採掘跡地の緑化が話題になりました。珪石採掘跡地緑化は強酸性の青粘土と鹿の食害が問題になりますが、宇久須在住のGEN世話人藤原國雄さんの尽力でなんとか目処がつきそうです。

また、2016年は大同での協力事業の25年目ということで、記念イベントを開く予定です。特に北京では、20周年イベントができなかったもので、今回は実現しようと北京の関係者から声をかけてもらっています。9月に実施を考えていますので、楽しみにお待ちください。

活発な意見が寄せられました。このような状況は数年にわたって続いており、2016年に迎える25年の節目はこれまでの成果を締めくくり、新たな方向をめざす大きなチャンスになります。そのためには新たな活動を担う人材が不可欠であることが強調されました。

国内活動では西伊豆町におけるプロジェクトが、IVUSAとの共働で重層的に大きく発展しつつあります。この日も西伊豆から藤原國雄さんとIVUSAの学生2人がかけつけ、詳細な報告がありました。

東北の津波被災地ではゆりりん愛護会(名取市)や仙台在住の会員などの協力をえて、9月に海岸林の再生活動に取り組みました。2016年度もさまざまな工夫をして取り組むことが計画されつつあります。

2016年2月20日(土)には世話人会を開催し、長時間をかけて今後の方針を検討することになっています。

宮城県林技センターと KANSO テクノスによる

菌根菌を用いた海岸クロマツ林再生試験

栗栖 敏浩（環境総合テクノス環境部）

宮城県林業技術総合センター（以下、宮城県林技センター）と環境総合テクノス（略称・KANSO テクノス）は、2013 年から菌根菌を用いて、東北地方太平洋沖地震の津波により被災した海岸クロマツ林再生に関する共同研究を開始しました。外生菌根菌（松露：ショウロ）を活用した様々な試験を実施した結果、外生菌根菌を用いて「マルチキャビティコンテナ」と呼ばれる育苗容器で育成したクロマツ苗木が施肥によって育成されたクロマツ苗木に比べて遜色なく生育することや、圃場試験ではショウロを接種した苗木から実際にショウロの子実体（キノコのこと）発生が認められたことから、2015 年 11

月からは、宮城県岩沼市において津波で失われた海岸林跡地でクロマツ林再生試験を始めました。

当社での菌根菌と木炭を用いた海岸クロマツ林再生の研究は、GEN の顧問である小川眞先生や京都樹木医会 of の伊藤武先生が、当社研究所の所長と副所長であった 1995 年頃から手掛け、2005 年頃には関西地域を対象とした菌根菌を用いたクロマツ林再生技術としてほぼ確立されていきました。そこで、3.11 の大津波によってほぼ壊滅した海岸林再生に関する共同研究を宮城県に申し入れ、実際の海岸でのクロマツ林再生試験を実現することができたのです。

ショウロの効果を宮城県林技センタ

ーと共同で確認する過程を通じて、地元の方々からは技術的な信頼を頂くことができましたし、2015 年 9 月には、圃場において今では希少となったショウロの発生が始まると、宮城県林技センターだけでなく地元の方々にもたいへん喜ばれました。

今年も被災後の盛土造成地でのクロマツ苗木の植栽試験を計画しており、今のところ 2016 年 5 月頃に数百本のクロマツ苗木を様々な試験区を設けて植栽する予定です。もし、このような試験的な取り組みにもご関心をお持ちの会員の方々のご参加が頂ければと思っています。詳しい実施内容が決まりましたら、この会報に掲載頂こうと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【写真】2015 年 11 月にクロマツ苗木を植栽した海岸盛土造成地（宮城県岩沼市）と作業の様子（中央は植栽したクロマツの苗）



いますぐできる G E N への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000 円
家族会員（同居の家族 2 人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。

年間購読料 2,000 円。

■絵はがき『黄土高原の花』

8 枚組・300 円（送料別途。5 セット以上送料無料）

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボ

ランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

* * * * *

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは所轄庁（大阪市）に認定された認定 NPO 法人です。

GEN への寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。大阪市在住のみなさんは地方税の控除を受けることもできます。

黄土高原史話 <76>

花ひらく北魏の洛陽（上）

谷口 義介（GEN 会員）

孝文帝（471 ～ 499 在位）の墓の長陵とか、追善のための賓陽中洞とか、前は少し“陰”がかっていたけれど、年が明けて一陽来復、正月らしくポジティブな話を。

大和十七年（493）八月、孝文帝は大軍をひきいて平城（大同）を出発、九月に洛陽に到着するや、突如として遷都を表明。十月には、さっそく都づくりに着手する。

このころ洛陽は、西晋以来、諸勢力の激しい争奪の的になっていて、城内はひどく荒廃していたが、新たに都を造るにあたり役立ったのが、北魏初代の道武帝（386 ～ 409 在位）以来なされてきた平城の造営。すなわち、平城の地を都と決めたとき、ノウハウがなかったので、

太祖（道武帝）、宮室を広めんと欲し、平城の四方数十里を規度（測量）せしむ。將に鄴・洛陽・長安の制に模らんとす。（『魏書』莫類伝）

鄴というのは三国・魏の曹操が定めた都で、城内の北側中央に王宮を築き、その南に南北方向の大街を通し、それに沿って役所を並べた。

じつは、今の大同市街の北側にある大同駅の近くで北魏時代の瓦と礎石が見つかっており、皇宮の跡と推定される。この点で、北魏の平城が鄴都に学んだことは明らかだ。ちなみに、後漢・

魏・晋の洛陽は、城内のほとんどを北宮と南宮の二つの宮殿区が占める、という形式。長安の方は、前漢の形式をおそっていたとすれば、これも都市プランを異にする。

ところで、平城は都城としてはなお未成熟であったから、孝文帝の時代にも改造がなされた。帝は都市設計のエキスパート 蔣少游を洛陽にやって、「魏・晋の基址を量準」らせたり（『魏書』同伝）、また当時敵対していた南朝の齊にまで遣わして、「密かに京師（建康＝今の南京）の宮殿の格式（規格）を観せしめ」た（『南齊書』魏虜伝）。

かくして平城は都としての偉容をととのえたが、孝文帝は洛陽に新都を造るにさいし、旧都平城の例を大いに参考にしたわけだ。

具体的には、旧洛陽城内の南宮あとを取り除き、北宮のあとに東西 600 × 南北 1400 メートルの宮殿区を一つ設定。そこから南行する幅 40 メートルの幹道を敷いた。

大和十八年（494）十月、孝文帝は祖先の神主を奉じて平城を離れ、十一月、洛陽に。翌年九月、文武の百官も洛陽に移ったから、このころまでに宮殿・役所が完成をみたのだろう。



霧に覆われた昨年末の大同

高見 邦雄（GEN 副代表）

昨年 12 月 4 日から 12 日まで大同に行きました。例年とのちがいは雪が多かったこと、気温が高かったことです。雪は 11 月中旬を最初に、それまで何度も降ったとのことで、私の滞在中にも降り、高速道路が閉鎖されたりしたのです。実験林場・カササギの森や南天門自然植物園にも最大 40cm ほど積もったそうで、結局、行けませんでした。

気温は最低気温が－ 15℃前後、最高気温が 0℃前後で、0℃以上になることもあったのです。その後も記録的な暖

冬だそうです。いつもの年は気温はもっと低いのです

が、乾燥しているために、日が出て風がなければそんなに寒く感じません。ところがこのたびは曇りや雪の日が多く、湿度が高いために、私はむしろ寒く感じました。

霧がでることも多かったのです。表紙の写真は緑の地球環境センターのトウヒ（雲杉）に着いた霧氷で、クリスマスにぴったり。

北京にでる 10 日の朝も大同空港周辺が深い霧で、敷地内の木々が霧氷に覆われているのが美しく、写真を撮って

ところが、遷都後 5 年もたたないうちに孝文帝は病没し、宣武帝（500 ～ 515 在位）が即位する。

翌・景明二年（501）、新帝は畿内の男子 5 万人を動員し、旧洛陽城内とその周囲に 320 の「里」を設けた。「里」とは 1 里（約 500 メートル）四方の広さを持ち、まわりを塙で囲んだ居住ブロック。「里」の設定は、「姦盜は永く止まん」（『魏書』広陽王嘉伝）とあるごとく、首都の治安を目的とした。わが平城京は、北端中央に平城宮（いわゆる御所）、その南面中央から南下する朱雀大路。こうした都市構造は平安京にも引き継がれるが、そのルートとはいえば、曹魏の鄴→北魏の平城→北魏の洛陽ということに。

私はよろこんでいました。ところがこの濃霧のため、北京からの飛行機がこないのです。

じつは 7 日から 10 日までの 4 日間、北京是最悪の煙霧に襲われるという赤色警報が発せられました。これまで遭遇したことのない私は、一度は体験したいと言いふらしていました。今回はなんとかまにあうと思うたのに、また空振り。本来なら 9 時過ぎに北京空港に着くはずが、大幅な遅れで、16 時過ぎになってしまったのです。

その話をすると、北京の友人たちは、「もっと長く北京にいてくれたらいいのに…」と話します。

情報ひろば いっしょなかたち

自然大学（第 22 期）受講生募集

2016 年 4 月～2017 年 3 月

全 14 回（室内講義 7 回、実習 7 回、基本は日曜日）

第 1 回（4 月 10 日）は公開講座

室内講義は近畿中国森林管理局 4 階大会議室（JR 大阪環状線桜ノ宮下車）

実習は春日山、豊国崎、金剛山、馬ヶ瀬山、京大芦生研究林（1 泊）、琵琶湖、昆陽池で、五感を働かせ、身体全体で自然を感じます。

受講料：35,000 円（野外実習経費は別）
http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/
NPO 法人自然と緑（TEL.06-6978-5060
E-mail sizen_mi@osb.att.ne.jp

わくわくの郷主催事業 「竹林整備の課題・間伐竹の 利活用を考えよう」

武田義明氏（神戸大名名誉教授）、大塚憲明氏（里山倶楽部理事）

日時：2 月 28 日（日）10:00～16:00

場所：吹田市自然体験交流センター・万博公園森の足湯

対象：竹林整備に関心のある方 18 名

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月 15 日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

参加費：100 円（入園料は別）

申込み：2 月 10 日までにわくわくの郷
吹田市自然体験交流センター（TEL.
06-6872-0713）

森林環境教育 活動報告・意見交換会 森林 ESD 活動に取り組む

14 団体の活動報告

日時：1 月 25 日（月）12:45～17:35

会場：近畿中国森林管理局大会議室
（大阪環状線桜ノ宮下車 5 分）

共催：きんき環境館（06-6940-2001）、
大阪環境パートナーシップネット
ワーク（06-6973-7666）、箕面森林ふ
れあい推進センター（050-3160-6727）

定員 70 名（先着順）申し込みは下記へ
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo/fc/>

自然観察インストラクター 養成講座

自然のなかの不思議な営みを見つけ
だして感動し、その感動を人に伝える
ことがインストラクターの第一歩。

▼基礎編 4 月 2 日～6 月 5 日（9 回）

▼応用編 6 月 12 日～9 月 4 日（7 回）

▼実践編 9 月 7 日～11 月 27 日（11 回）

平日の室内講義（主として水曜日
18:45～20:45）は環境情報プラザ（森
ノ宮駅から徒歩 5 分）。土・日の観察地
は各地の公園などを予定。

受講料：34,000 円

（公社）大阪自然環境保全協会（06-6242-
8720 E-mail inst@nature.or.jp
<http://www.nature.or.jp>）

編集後記

節目の年あたり、振り返る機会が多くなります。とくに初期は失敗と困難の連続で、よく続いたものだと思います。そのときどきに新しい支援があって、乗り切ることができました。

大同事務所の武春珍所長が「奇跡」を連発するのも、現場で苦闘してきた彼女たちにすれば、当然の思いなのでしょう。

そしていま質的に異なる試練に直面しています。成果を踏み固め、新しい一歩の年にしたいものです。（高見）